異文化と心通わせ ㉝

村田　佳子

重宝しそうな贈り物を選ぶには？

先日、オランダ大使館主催の地球温暖化防止会議を手伝う機会がありました。会議には環境省関係者やオランダ、日本の企業、メディア関係者など100人ほどが参加し、複数の専門家による講演が行われた後、夕方にはパーティーが開催されました。パーティーが終了し、講演したオランダ人の先生が帰り際のこと。記念品として受け取った1㍍ほどの細長い棒状の包みに興味を持った先生は、会場出口ですぐにリボンを解き、包みを開けました。

中身はユニークな形のかさ。みんなの前でさして見せたそのかさは、片側が大きく広がり、もう一方が小さめに作られていました。オランダ製で風の向きによって持ち方を変えると雨をよけられるという珍しいものでした。素材も丈夫なのだそうです。同じく受け取った日本人の先生方も雨と風の強い日に重宝しそうだと話していました。

重宝する贈り物と言えば、東京都内で行われた友人の披露宴と二次会に参加したのですが、二次会で行われたゲームで勝利した方に贈られた品物の中にも、新郎新婦のセンスが光るさまざまな工夫がありました。中でも会場で「おー」と歓声が上がったのは、男性向けに贈られたデパートのワイシャツ仕立て券でした。会場に集まった男性の多くは商社や官公庁に勤務する方々でしたので、クールビズが始まったこの時期、お気に入りの一枚を仕立てるという提案に感心しました。

身近すぎて便利さを意識していないものが意外に喜ばれることもあるようです。以前、アフリカ・ガーナから来日し農業関係のエンジニアをしていた男性が作業着の胸のポケットから細い白い箱を出して見せてくれました。「ムラタサン、これみて」。粗品と書かれた箱から取り出したのは1本に黒と赤と青のインクが入った3色ボールペンでした。

視察で訪れた企業から記念品としてもらったものでしたが、それを説明する彼はカチャカチャとペンの先の色を変えながらとても無邪気に「1本で3色も入っているんだよ。知ってる？　日本にはこんなものがあるんだね～。お土産に同じものを買っていきたいんだけどどこに行けば買えるの？」。

私も3色ボールペンを初めて見たときは、彼と同じようにその画期的なデザインと機能に感心し、同じようにカチャカチャしたものです。今はそれが便利であることにも慣れてしまって、複数のインクが1本に入ったボールペンがすごいことを忘れていました。機械などに興味がある方なのでペンの仕組みやアイデアにも感心したのでしょうか。3色ボールペンが彼のど真ん中にヒットしたようでした。

品物に感動して粗品の箱も捨てずに大事に使っていた彼を見て、贈り物とは高価である必要はなくて、相手の感性に合っていて日々重宝するものが喜ばれるのだと知りました。相手の日常や感性、興味を考えて…そしてもっていなさそうなもの…重宝しそうな贈り物を選ぶのはやっぱり難しそうです。（鶴岡市出身、コーチングシステムズ）